

令和5年度 第2回高知支部評議会 議事録

開催日時 令和5年10月20日(木) 10:00~12:00

開催場所 高知会館「やまもも」

出席者	被保険者代表	市川評議員、岡本評議員、濱崎評議員
	事業主代表	古谷評議員、廣末評議員
	学識経験者	中川評議員(議長)、西森評議員、竹島評議員

- 議題1 令和6年度平均保険料率について
事務局より令和6年度平均保険料率について説明。

(学識経験者)

準備金残高がマイナスに転じた時の対応はどうなるのか。

(事務局)

国へ国庫補助率を上げてもらうよう要請したり、保険料率を上げたりせざるを得なくなる。

(被保険者代表)

ジェネリック医薬品にすべて切り替わるとどれほどのインパクトがあるのか。
また、医療機関受診における上限はないのか。赤字構造の中では個人の行動変容が重要であると考えている。

(事務局)

ジェネリック医薬品への切り替えにより、約4,200億円の医療費削減になる見込み。医療費削減のために協会けんぽはもちろん、各医療保険者と共同で取り組むことも必要であると考えている。

(被保険者代表)

保険料率を下げるのは難しい現状というのは理解しているが、被保険者としては10%負担が限界だ。国庫補助率の増加を要請したり、制度そのものの見直しを検討したりする時期が来ているかもしれない。加入者が健康的に過ごしていくための対策を講じる必要がある。

（事業主代表）

他保険の組合員が移管してくると協会けんぽの運営にどういう影響があるのか。制度維持のためには保険料率の維持とともに、受診者側の意識変容が必要になってくると思う。

（事務局）

赤字により解散となった健保組合が移管してくるケースが多いため、財政的にはマイナス要因が多くなることが想定される。

（学識経験者）

私がイギリスにいたときは、風邪で受診してもお薬はもらえなかった。診てほしいのは、この症状が重病につながるものなのか、それとも風邪なのかというところであり、薬が必要ないケースでも日本の場合は薬が提供される。必要な方が必要な時に医療を受けられる皆保険制度は重要なシステムであり、加入者に自分たちの受療行動が保険料率にどういう影響を及しているのか理解してもらう取り組みが必要である。また、少子高齢化により人口構造が変わり、近い将来単年度赤字が見込まれる中、医療費の高い県だけでなく、全国で共通した制度の抜本的見直しが必要である。

（学識経験者）

10年後に準備金残高がマイナスになり借金状態になったらどうなるのか、ということ加入者がリアルに想像できるのかという話だと思う。マイナスのシミュレーションを派手に広報することはできないかもしれないが、それ位しないと真剣に考えていただけないのではないか。

（被保険者代表）

社会保険の仕組みを教育の場で説明していくのも重要ではないか。

（平均保険料率 10%維持、3 月分（4 月納付分）から変更で異議なし）

● 議題2 令和 6 年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定に向けた意見交換

事務局より、令和 5 年度支部事業計画について、令和 5 年度支部保険者機能強化予算について、高知支部の健康課題と今後の取り組みについて説明。

（事業主代表）

事業所でもトップが現状を知らないところが多いため、トップ・従業員に対する周知と他団体を通じて広報を行うなどして、全体に危機感を共有していく必要があるのではないか。

（学識経験者）

教育の場での社会保険制度の周知や、全国的な広報（有名人を活用したテレビCMなど）を行い目につく機会を増やしてはどうか。

（学識経験者）

SNS を利用した広報や、過去に作ったネタを統合していったミニ番組をつくるという方法もあるのではないか。広い対象者に対する広告とコミュニティーなど身近な対象者への周知の両方で進めていく必要がある。

（事業主代表）

個人の健康づくりやその結果によってインセンティブを付与することで、主体的に取り組むことができるような環境も必要かもしれない。

（学識経験者）

協会けんぽからの「特定健診」の案内をもらってドキッとさせるのもある意味必要だが、自ら楽しく進んで行動できる勧め方というのにも必要ではないでしょうか。

- 連絡事項

次回評議会は、令和 6 年 1 月に開催予定。